

地域教育情報誌

チュウホク ドット コム
中北.com

中北教育事務所
教育支援スタッフ

TEL 0551-23-3046

FAX 0551-23-3013



中北の地域社会（**com**munity）の心の交流（**com**munication）をめざします

「問うこと」を大切にしたい

中北教育事務所 所長 鈴木和幸

山々の新緑も色濃く、さわやかな風を心地よく感じる季節となりました。皆様方におかれましては、日頃より中北教育事務所の業務にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

令和7年度を迎えておよそ1ヶ月が過ぎました。ドキドキわくわくしながら進学や進級した子どもたちも学校生活に慣れてきたところでしょうか。子どもも教師も保護者・地域の方々も笑顔があふれる学校になりますことをあらためてご祈念申し上げます。

令和6年度末人事異動により中北教育事務所では、6名が転出し、5名の転入がありました。新たなメンバーを迎え、教育支援スタッフ（地域教育・学校教育）、総務担当、非常勤職員のスクールソーシャルワーカー、アドバンスティーチャーを含め、総勢25名体制で業務を進めます。中北地区における教育行政の拠点として、また、山梨県教育委員会の出先機関として、管内各市町教育委員会や各小・中学校並びに関係諸機関との連携を図りつつ、職員一丸となって地域に開かれた教育行政の推進に努めてまいりたいと存じます。

さて、題目にかかせていただいた「問うこと」です。「教師の仕事は子どもたちを褒めること（応援すること）と問うこと」と教えていただいたのは、元山梨大学教授の中村享史先生です。中村先生は算数の授業について「問う」というテーマで多くの著書をお持ちです。これを読み、私は「問う」ということは汎用性があると考えようになりました。つまり、仕事にしても何にしても「問うこと」が大切だと思っています。

とかく業務は前例踏襲しがちです。しかし、この変化の激しい時代に、「今の業務でよいのか、さらに改善していく必要はないのか」など、現状を「問うこと」を大切にしていきたいと思っています。そもそも「何のためにやるのか」というねらいや目的を考え、業務を根本から見直すことも必要だと思います。また、業務が忙しいと「問う」ために立ち止まるのが難しくなります。今、言われている「働き方改革」は、「問う」ための余裕を生み出すために大事だと思います。余裕が生まれれば、クリエイティブに仕事ができます。クリエイティブに仕事ができると、仕事が楽しくなってくると考えています。さらに、「問う」ためには、まわりの人の助言を聞くことが大切になると思います。まわりの人たちの助言は、私自身にない視点を与え、自らの考えではなしえない、違う領域やステージに運んでくれます。

上記のことは、私のこれからの決意でもあります。今後の業務はもちろんプライベートも含め、「問うこと」を大切にしていきたいと思っています。



Pickup!

主体性を引き出す図書館活動

～玉穂南小学校 図書館の取り組みより～

図書室

玉穂南小学校（齊藤千代美校長）は、令和6年度子供の読書活動優秀実践校として、文部科学大臣表彰を受けています。2月28日、どのような取り組みが行われているのか同小学校を取材しました。

丸山美奈子司書は、児童に対し、図書館に足を運んでもらうこと、多様な本との出会いを提供することを心がけ、実に多彩な取り組みを行っています。しかも、特筆すべきは、それらが、5、6年生で構成される図書委員を積極的に巻き込んで実施されていることです。図書委員に好きな活動、やりがいのある活動について尋ねたところ、そのことを裏付けるように、「私の朝読書の放送で全校の人たちが本を読んでくれること」（早川純礼さん）、『「こんな本があったんだ」と思える給食の時間の図書クイズ（注1）」（松木いちかさん）、「読書週間のビンゴ（注2）でスタンプを押すと『やったあ』と言ってくれること」（齊藤桃香さん）、「自分たちが時間をかけて作ったふくぶくろ（注3）をみんなが借りていってくれること」（依田力哉さん）、「本のアイディアをもじって自分で考える企画（注4）で、みんなが色々なアイディアを出してくれ、表彰された人が喜んでくれること」（川崎蒼太さん）、「自分たちが作ったふくぶくろを低学年から高学年までが借りに来てくれること」（大勝洋花さん）、「本を借りたり返したりするときに（機械で）ピッとすること」（小池心愛さん）など多種多様な答えが返ってきました。図書委員が、楽しみながら主体的に活動に関わっていることがひしひしと伝わってきました。

また、この日はちょうど中央市学校給食センターが実施する「おはなし給食」の日でもありました。「おはなし給食」では、本に登場する食べ物が献立に出てきます。今回取り上げられた本は「エルマーと16ぴきのりゅう」で、冒険を終え、帰ってきたエルマーにお母さんが作った昼ごはんのメニュー、「目玉焼き」「トマトスープ」が献立に含まれていました。図書館には、「おはなし給食」に合わせてコーナーが設けられます。「エルマーと16ぴきのりゅう」はもちろん、丸山先生が選んだ「冒険もの」の本が紹介されていました。昼の放送では、給食委員の小林大駕さん、鷹野頼人さん、本山権理さんが、あらすじとともに物語と本日の献立との関わりを紹介し、「ぜひ手に取って読んでみてください」と呼びかけました。3人は放送について、「緊張する」と話していましたが、そんな中でもしっかりと役割を果たしていました。

このほか、「クラス対抗絵あわせパズル」もすばらしい取り組みだと感じました。本を借りるとピースがもらえる仕組みで、クラスのパズルを完成させるには全員が本を借りる必要があります。全員で取り組むという意識のもと、2学期の読書週間は大いに盛り上がったそうです。

様々な角度から児童の主体性を引き出す同小学校の図書館活動がますます発展していくことを願います。

（注1）

毎週火曜日、昼の放送で、本にまつわるクイズが出題されています。

（注2）

読書週間に行われる企画で、スタンプが集まりビンゴになると、しおりがもらえたりくじが引けたりします。

（注3）

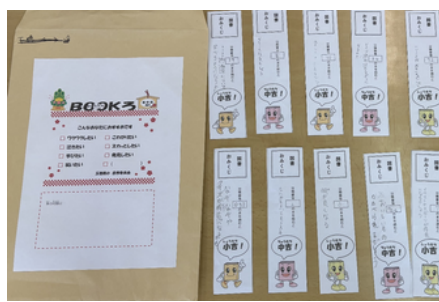
ふくぶくろの中には「ワクワクしたい」「泣きたい」などのヒントに基づく本とおみくじが入っています。おみくじには、図書委員によって、次の読書につながるような「分類番号84の本を読むとドイツ語が話せるようになるでしょう」などのコメントが書かれています。

（注4）

読書週間に行われる、本を題材にした問いに対し、児童が自由な発想で回答を作り応募するという企画です。たとえば、『しんこうきピコリ』その色が光ったときは…という問いに対して、児童は「〇〇の色が光ったら□□する」の形で思いの回答を寄せます。応募作品は図書委員が審査し、優秀作品については掲示され、表彰されます。



完成したクラス対抗絵あわせパズル



『本のふくぶくろ』で使用した封筒と手作りおみくじ



図書館にある『おはなし給食』特設コーナー

Pickup!

地域を見つめ、探究する

～甲府昭和高校「総合的な探究の時間 発表会」より～



3月17日、甲府昭和高校（加藤忠校長）で、今年度の「総合的な探究の時間」の総まとめとして探究活動の成果発表会が開かれました。発表会は、1、2年生全員が体育館に集合し、各クラス1グループずつ選出された代表グループのプレゼンテーションを聞くという形で行われました。生徒は時折メモを取りながら、それぞれのグループの成果について熱心に耳を傾けていました。

探究テーマは、1年生が「身近な地域の課題解決について」、2年生が「地域の課題発見と課題解決の実践について」と設定されています。県の人口減少に着目し、労働力不足を補い、魅力ある街づくりをするための解決策として「ロボットの導入」について探究したグループ、県内にも数多く存在する廃校の現状を紹介したうえで、活用方法として「廃校アスレチックパーク」や「廃校お化け屋敷」を提案したグループ、県にまだない施設として、あらゆる年代が集えて災害時にも対応できるような「多機能商業施設」を提案したグループなど、自分たちの住む地域を見つめることから出発した、若い世代ならではの柔軟な発想に富んだプレゼンテーションをたくさん聞くことができました。

内容だけでなく、「伝わる」プレゼンテーションという観点からの工夫も随所に見られました。たとえば、「幸せのカタチ」と題して発表したグループは、プレゼンテーション全体を複数人の会話体で構成していました。会話体で進めるためには、内容を、必要な情報はもらさず、くだけた表現に作り直す必要があります。煩雑な作業だったでしょうが、効果は絶大で、「他人事という意識ではいけない」「選挙に行こう」「知ることから始めよう」などの核となる主張が、会話体であるがゆえに聞く者の心にストレートに伝わってきました。

「総合的な探究の時間」においては、教科・科目を越えたすべての学習の基盤となる資質・能力の育成と活用が目指されています。「課題を発見する力」「伝える力」など、生徒が身に付け活用した様々な力を垣間見ることができる有意義な発表会でした。



発表会の様子（発表しているのは2年4組代表グループ）



令和7年度 中北教育事務所 地域教育連携事業について

1 第1回中北地区地域教育推進連絡協議会

- ① 日 時 令和7年6月26日（木）14：10～16：30
- ② 場 所 甲斐市敷島総合文化会館大ホール
- ③ 協議会 ※役員と事業計画の確認は、5月中に紙上提案の形で行う。
- ④ 研修会

演 題 「日本の教育を俯瞰してみよう
～海外ボランティアの経験から 感じた豊かさとは～」
(人権教育研修の内容を含む。約90分)

講 師 元JICAシニア海外ボランティア ことぶき勸学院講師
久保 弘恵 氏

2 中北地区地域教育フォーラム

- ① 日 時 令和7年10月16日（木）13：30～16：30
- ② 場 所 甲斐市敷島総合文化会館大ホール
- ③ 地域の文化発表 中北地域の高校生の文化発表（約20分）

韮崎工業高校 太鼓部

- ④ 研修会 テーマ「地域を愛し地域に愛される人づくり」

講演① 演 題

「会社をパワースポットに！育てたいのは希望と笑顔」
(仮) (約60分)

講 師 株式会社センティス21

代表取締役社長 保坂 剛志 氏

講演② 演 題 「Do your best and it must be first class.」(仮) (約60分)

講 師 萌木の村株式会社

代表取締役社長 船木 上次 氏

3 第2回中北地区地域教育推進連絡協議会

- ① 日 時 令和8年1月22日（木）14：10～16：30
- ② 場 所 甲斐市敷島総合文化会館大ホール
- ③ 地域団体の活動実践発表 北杜高校
- ④ 研修会

演 題 「悩みとの付き合い方
～あなたができること わたしができること～」(仮)

講 師 山梨大学教育学部准教授 田中 健史朗 氏

◆中北地区

子育て相談窓口・
教育相談窓口 案内

相談窓口案内を保育所・幼稚園・認定こども園、各学校、市町の子育て担当等各所にメール配信しています。当教育事務所のHPでもご覧いただけます。

ご利用ください。



◆中北地区

異校種間授業参観
『公開できる授業等一覧』

保育所・幼稚園・認定こども園、各学校に6月メール配信予定です。



紙面を飾ってませんか

地域教育情報紙『中北.com』は、年6回、奇数月に発行し、中北地区500か所以上に配付しています。
学校や地域、諸団体での様々な取り組みをぜひ取材させてください。問い合わせは右記まで、お気軽にお声がけください。

令和7年度 『中北.com』 No. 1
編集・発行 中北教育事務所
担当 花形 健一 ・ 江川 みづほ
〒407-0024 韮崎市本町4-2-4
電話 0551-23-3046 FAX 0551-23-3013